

令和4年度第1回 さいたま市廃棄物減量等推進審議会

議 事 録

日時 | 令和4年5月24日 (火)

14:00~15:55

会場 | ときわ会館3階 第1会議室

令和4年度第1回さいたま市廃棄物減量等推進審議会 議事録

1. 日時

令和4年5月24日（火）14時00分開会 ～ 15時55分閉会

2. 場所

ときわ会館3階 第1会議室

3. 出席者（敬称略）

出席委員

鬼沢 良子 磐田 朋子 永田 信雄 清川 静香 吉田 正信 内田 宜宏
田口 ゆり子 小池 佑弥 野代 幸一 山崎 蓉子 小ノ澤 忠義

欠席委員

川本 健 小林 敦 大前 万寿美 一井 里映

事務局

環境局長

[資源循環推進部]

資源循環推進部長 資源循環政策課長 廃棄物対策課長 外4名

[施設部]

施設部長 環境施設管理課長 環境施設整備課長

4. 次第

開会

諮問書交付

議事

さいたま市一般廃棄物処理基本計画改定骨子案について
今後の予定について

5. 議事録

開会

さいたま市廃棄物の処理及び再生利用に関する規則第33条第2項の規定に基づき、互選により鬼沢委員が会長に、また、副会長には磐田委員が就任することで決定した。

諮問書交付

さいたま市廃棄物の処理及び再生利用に関する条例第51条第2項の規定に基づき、諮問書の交付を行った。なお、交付は環境局長が代行した。

議事 さいたま市一般廃棄物処理基本計画改定骨子案について

鬼沢会長：本日は、議事1件、報告事項1件となっております。1件目のさいたま市一般廃棄物処理基本計画骨子案の審議ですが、これは平成30年3月に策定・公表した第4次計画を今年度見直すことになっています。

昨年度会議で審議した計画の改定骨子について改めて内容を確認するものです。

(事務局から、資料1「第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画の改定について」のうち1 一般廃棄物処理基本計画改定骨子案について説明が行われた。)

発言内容

鬼沢会長：これまでの委員の方は復習になり、初めて今日ご参加の方は初めてお聞きになる内容だったかなと思いますが、何か資料1の説明に関してご意見あるいは質問はいかがでしょうか。ここがちょっとよく分からなかったとかありましたらぜひご遠慮なく発言いただきたいと思いますが、かなりいろいろな改定が今後必要だというお話がありました。短期的なもの長期的なもの色々あったと思いますがいかがでしょうか。

清川委員：もうちょっと詳しく知りたいなというところも含めて、紙おむつが廃棄物の5%を占めているという話ですけれども、これはさいたま市の家庭から出る廃棄物のうちの5%ということになるのでしょうか。

事務局：これは国の推計です。さいたま市ではもえるごみの中で6%です。

清川委員：事情は分からないけれどもちょっと多いなと感じまして、でもこれをリサイクルするというのはニュースではよく見ますけれども興味としてどのようにやっていくのか気になるところです。

事務局：紙おむつのリサイクルは今技術を磨いているところで、鹿児島県の志布志市で大手のおむつ会社のユニ・チャームが今実証実験をしていて、おむつからおむつに変えていこうとしている。目的は森林伐採とかでパルプの供給が問題になっていて、パルプの再生を目指している。外側のプラスチックはRPF

という固形燃料にする。さいたま市は今後、紙おむつの排出量が増えるごみの7%含まれるという推計もありますので、その中で紙おむつというのはどうしても焼却炉の炉内の温度を下げてしまうので何かしらの対応は必要ですが、いまだ技術が研究段階にあるので、今後も長期的に情報交換しながら紙おむつから紙おむつというところで考えていきたいと思っております。

小池委員：資料6 ページ目の市民1人1日あたりの総排出量827gとなっているところで、最大3万1千トンごみを減らさなければならないけどまだ減っていないというところがあるが、実際8ページの令和3年度の実績を見ると実際は843gということで基準を上回っているのを考えると実際は3万1千トン減らすだけではだめで、おそらくもっと減らさなければいけないということなのかなと思うのですが、その辺の見解などがあれば教えていただきたい。

事務局：これはあくまでも推計値ですが計算上は現在843gで1人あたりのごみ減量施策を進めなくてはならないのですが、推計値は827gで、もっと下げた方がいいんじゃないかというところ。3万1千トンこれをどうやって削減していくのかというのを、やはり都心部の生活をしていて、800gを切ることはなかなか難しいだろうと、どうすればいいかという1人あたりのごみ減量を続けながらも、この3万1千トンをごみとして出すのではなく、焼却でやっているものをリサイクルに持っていき、そんな施策を今回考えて盛り込むような形になる。市民1人あたり827gは学識経験者の中では結構厳しい数字じゃないかと言われているのでリサイクルにどのくらい回せるかというところで考えています。

小池委員：気になっているのが、コロナ禍でインターネットのサービスがかなりスピード感が出てきて、ネットで注文して自宅で食べるという方が非常に増えているという印象です。ここの827gとか令和3年度の実績の重量とか含めて1人あたりのごみがどのくらい出るかというのを、正直難しいと思うが、そこをしばらく見ていかない限りは実際今出している施策で十分なのかという判断ができないと思うんですね。なので難しいところではあるけれども数値というのも社会のネットの流れというのを追いかけて策定していただければと思います。施策につながるかなと思いますので、ご参考にさせていただければと思います。

小ノ澤委員：確認だが、今年一般廃棄物処理基本計画を改定する作業があって、併せて生活排水処理基本計画、食品ロス削減推進計画、災害廃棄物処理計画を別途の計画にするのか。それとも一緒の計画に入れるのか。

事務局：生活排水処理基本計画は現在も内包している形で掲載させていただいておりますので、こちらは拡大・強化した形で内包させていただきます。食品ロス削減推進計画については、さいたま市は今まで作成していなかったものですが、今回中に入れさせていただきたい。災害廃棄物処理計画については現在も別冊になっているのでこちらはまた別にします。災害廃棄物については国も言って

いるようにこれまでは地震を想定したものが多くて、今回水害というのが2019年の台風でも言われておりますので、この辺を強化した施策として別冊で強化策をやりたいと思っております。

鬼 沢 会 長：毎年大きな水害が発生して、それに伴ってごみが大量に発生するというところで、そのあたりを強化していくことだと思います。料金改定の案も出ているかと思いますが。市民の皆様にとって一番関心が高くて反応するのではないかと思うのですが、市民のごみ処理手数料の改定案が出てますが、田口委員はどのようにお感じになられていますか。

田 口 委 員：さいたま市は処理手数料が近隣に比べてかなり安くなっている。そうするとさいたま市に持ち込むということはないでしょうか。

事 務 局：国の方も事業系の手数料については、近隣と均衡を取ってくださいますので、さいたま市も景気などを見てきて今やるべきかというところもあります。あまりにも近隣との差が開いたので同額ぐらいにしたいなと思って、挙げさせていただきました。

鬼 沢 会 長：ごみ処理手数料を上げるとなると市民の皆様の関心が非常に高いのと、手数料が上がると当然皆様ごみを少なくしようということで、そこにごみを減らすインセンティブがあると思うのですが、磐田先生そのあたりで何かございますか。

磐 田 委 員：今回この手数料は基本的には事業系のごみの手数料だと思いますが、そこで値上げされている分が例えば事業系の方たちの商品に上乘せされて、私たちの市民生活に何か返ってくるということを避けつつということを考えると、単に値上げだけではなくて事業者のリサイクルをプラスチックなり紙なりのリサイクルを支援してあげるのと併用で、ごみの量を減らしてあげつつ手数料を上げさせていただくという併せ技が必要かなと思っています。

事 務 局：リサイクルの推進というのも一つありますので、事業者の方にも何かリサイクルできる施策を盛り込んでいこうと考えています。

永 田 委 員：私は普段フードバンクの仕事をしているので、食品ロス削減ということで取組をしているのですが、リユースとリサイクルといった場合、大量のものを燃やしたりしないで交換したりするにはストックする場所が必要です。NPOとか市民団体の方と一緒に洋服のリサイクルであるとか、あと私のところでは紙おむつを毎月400個くらい物流のところから頂いて、乳児とか老人の施設に渡すのですが、それにしても運ぶあるいは一時保管するという所が必要で、先ほどそういったものを援助するというお話がありましたが、そういうリユース・リサイクルを進められる対策を並行してやったらいいのかなと思っています。

鬼 沢 会 長：ちょっとサポートするものや場所、ヒトというものがあるとそれまで滞っていたリサイクルやリユースがうまく進むという、今まで基本計画の中ではあま

り謳われてこなかった部分だとは思いますが、そういったこともすごく大切だと思います。

吉田委員：私はこの審議会に2年前に入ったけれども、それまでは一般の市民でいて、本当にこのごみのことを一般の市民が本当に考えているのかなど。ここではすごい協議していますけれど、表に出れば一般の人は多分いま130万、世帯数にして62万なんですね、その人たちがどれだけの人たちがごみの減量について考えているか。例えば資料の中で1人1日あたり827gにしたいということ自体も知らない人ばかりだと思うのですよ。行政にお願いしたいのはもっとごみを減らしてくださいというPRをいっぱいすべきだ、それをいかにするのかというのは、自治会に頼ってもだめなんですよ。自治会って、62万世帯あっても、自治会に加入している人って多分、半分。50%切るか切らないかくらいしか加入していないんですよ。ですから、例えばさいたま市の広報誌とか、ああいう中にもっとごみについてのPRというか現況について、例えば水絞ってだせばこれだけ経費削減できるんだというような、減量できるんだというようなそういったことをもっとPRすべきなんじゃないかなと思うのですが、でもぜひ考えていただければというふうに思います。

鬼沢会長：特にさいたま市は人口増加が予測以上に多いということはやはり外部から転入してくる方が非常に多いのだと思います。そういう人たちに本当に情報がちゃんと届いているか、もしかしたら届いていない可能性もあるので非常に大切な指摘じゃないかと思います。

山崎委員：いまおっしゃられたことがよく分かりまして、自治会の時に私もしょっちゅう出ている方にはさいちゃん的环境通信を読んでいただきたいと毎回言っているのですが、一応そういった方だけにも知ってもらおうと思いましたが、回覧板に毎回一度は読んでくださいということでお願いすることで回してはいるのですが、なかなか市の方は一生懸命やっているのは分かっているのですが、本当に皆様に通じていない。事業者ばい方が収集所に出しているところを見かける。また、事業者の方の分別も大雑把な気がするけれども、なかなかその方には言えなくて。でも分別するんじゃないのっていつも思っているのですが、そういった方もいらっしゃるので、事業のごみもちゃんとしていないのではないかなと感じております。

鬼沢会長：今2つご指摘がありまして、家庭ごみのところに出されている事業者のことはどうなっているのかということと、事業系のごみが一緒くたになっているのではないかというご意見なのですがいかがですか。

事務局：これにつきましては、事業系ごみ手数料の値上げとなるとその辺がやはり心配なところございまして、今回も事業系ごみの事業者への指導とか、監視を両輪で強化していく必要があるところで、計画の中にも盛り込んでまいりたいということと、あとなんでも入れてしまえばいいということについて

は、先ほど副会長がおっしゃったようにリサイクルに流すというところをどうやって周知していくか、こちらも事業者を対象に説明会等を開いてご説明するといった強化策を入れてまいりたいと思います。

野代委員：私の家の前が有害危険ごみを捨てる場所で、いろいろなものが捨ててあって、収集日以外のものが捨ててあるわけなのです。そうしたらそこにスプレー缶があって、収集時にボンと破裂しまして、火事になっちゃったのですよ。対策とか行政の方で監視カメラとかを取り付けたりできないのですかね。

事務局：監視カメラは、約4万の収集所があって、おっしゃることは今すごく問題になっていまして、市報で周知はさせていただいているのですけれども、まだまだ吉田委員がおっしゃっていたように周知不足のところがあると思っております。監視カメラは今度それをチェックする人員体制とかすごく大きな話になってしまうのでパトロールで、監視カメラの設置は難しいのですけれども、おっしゃられたことをするといった形で、今もパトロールはしておりますので。

鬼沢会長：収集の時に分かった時点で取り残したりしているんでしょうけれども、何かに紛れていたりすると分からなくて入っちゃったりということもあると思えますし、本当に収集車が燃えたら本当にすごい損害ですし、清掃工場に入っちゃって火災が起きたらもっとすごい損害ですから、出す側が気を付けていかなければならないところなのですけれども。改定の強化項目の中に今回新しくできたプラスチック新法で、製品プラスチックの回収も一応考えていらっしゃるということなのですが、可能な限り収集方法を変更しないで市民の方には出していただきたい。収集には実はすごいお金がかかるものですから、その辺をいかに徹底していくことが大切じゃないかと思うので、市民への普及啓発でもなにかもっと斬新なアイデアを皆様から寄せていただいて、知っていただかないと、なかなか大都市さいたま市の市民の皆様には知っていただく、徹底して知っていただくのは難しいのかなと思いますので。例えば今までこうだったけれども、大きくこういう風にやってみようといういうのもさいたま市だったらこれだけ大きな市でいろいろなアイデアを活かしていけるのではないかなと思うので、いい見本にできるのではないかと思いますし、その辺期待しておりますので、いろいろアイデアを出していただけたらと思います。

小池委員：斬新なアイデアというよりは多分考え方が大事かなと思っております、さっきの1人当たりのごみ量の話もそうだと思うのですけれども、おそらく世代間によってごみの出し方に差があるのかなと思います。多分ご高齢の方はこの地域に長く住まわれている方だと思うので、ルールがしっかりされている方だと思いますけれど、例えば1人暮らしでさいたま市の大学に通うために越してきた方だと、その辺のルールが初めから分かっていない方だとどうし

でも出し方がちょっと雑になったりすると思うので、周知するにしてもどう
いう人に対して、こういうメッセージを当てるなど、ターゲットをしっかりと
分けていただいた方が、広報だけというよりかは効くのかなとは思いますが。

鬼 沢 会 長：いろいろな工夫はされているとは思いますが、先ほどお話があったように、
広報を見ない若い世帯も多いのではないかと思うのですよ。そういう意味で
アプリとかいろいろな工夫はされていますけれども、なかなかそういった本
人が欲しいと思っている情報と行政が知ってほしい情報というのは実はもの
すごい乖離があるのでなかなか伝わらない部分があるので、その辺をこれか
らどうやって伝えていくかということが本当に大切なのではないかと思いま
す。

磐田副会長：ごみの出し方について、ドイツとかはすごくシンプルですよね。ペットボト
ルとそれ以外のプラという形で誰もがわかるような出し方になっているのに
対して、日本はちょっと細かいですよ。食品トレーとか一個一個になって
いる。やっぱりそのあたりの分かりにくさが転居者とか若い世代に共感を得
られないのかなと。事業者さんにとってもどこまできれいにしておさなければ
いけないのか、変な話なんですけれども、集めたプラスチックって1回洗いま
すよね、リサイクルする前に。どうせ洗うのだったら別にそこまできれいに
しなくてもいいのではないかという意識があるというような調査もあります。
そういった手間をかけすぎてしまうあたりも協力率を減らしている要因
なのかなと思います。そこら辺をどこまでさいたま市として思い切って求め
ていくのかという所も関係するのかなと思いました。

野 代 委 員：参考までですね、東京の立川ですか、あそこに住んでいる人の話では、ラベ
ルからキャップからすべて水洗いしないと出せないようなシステムになって
いるのです。だからそういう風に徹底させてもいいんじゃないかなと思いま
す。それから自治会の連合会の方が来ておられますけれども、新しく来た人が
自治会にほとんど加入しないんですよ。ということは市民税払っているから、
勝手だろうということと言われるんですよ。あと、何で入らないのですか
というと、メリットが何にもない、ただ毎月2千円、2千4百円払って何のメ
リットがあるのだろうというようなことがよく言われるわけですよ。若い人た
ちにとっては本当にメリットないんですよ。お子さんが生まれたり、それか
ら就学児童の時はお金が出ますからいいんですけれども、それ以外に本当に若
い人たちにメリットが無いように思うのですから、加入は必要ないというのは
仕方ないと思うのですけれども。

吉 田 委 員：確かに自治会に入っていない人が本当に多いので、自治会というよりも令和
4年度のごみ出し方についてあるでしょ。この中に1ページ目にごみ減量の
ことがちょっとだけ書いてあるんですよ。さいたま市水道だよりというのがある。
こんなに大きなメッセージが出ている。なぜこれくらいのものごみに

もやらないのか。せっかくこれ全戸配布なので、この中にもっといろんなものをごみのことについて大きく出してみたらもっと違う。皆さんこれを見てごみを出していると思うので。私もつい3年前までは普通に勤めていましたので、ごみなんて言うのは妻が出すもので私はやるもんじゃないと思っていましたけれど、自分で会社を辞めると普通にうちにいるようになると色々なものに、例えばさいたま市の市報があるのですけれども、例えばこの中に、区政版と市のものがあって、市の方にもっと大きく出してみたら、これは自治会に入っている入っていない関係なく全世帯配りますので、そうすると、そんなにここに出すだけで、改めて作らなくてもそんなに経費が掛からないように思うのですけれども。改めてごみとして作るとかなりお金が掛かっちゃうのですけれども、そういうのを利用してみたら違うんじゃないかなと思いますけれどもね。

清川委員：先ほど広報誌の話も出ましたけれども、もうちょっと大々的に発信してもいいのではないかと思います。あと、ちょっと難しいのかもしれないですけど、新聞だったり、さいちゃんのアプリも私は見てますけれども、そういったところで面白く発信していくような、大事なことなんですけれども楽しみながら見られるようなものの方がいいのかなと思いました。

内田委員：先ほど吉田委員からもありましたけれどもアプローチの仕方がやはり行政すぎちゃっているのかな。もうちょっとアプローチを言葉の使い方ひとつで変わるんですよね。どうやって響かすか。これはこれで大事なのかなと思います。我々もPTAのことをやっていると、子どもにどういう言葉で伝えたらわかるのかなとか、もちろん先生方とも聞きながらやっていますけれども、どういう風な言葉を使ったら響くのか、そして考えようと思うのか、そのアプローチがすごく大事なのかなと思っています。そういったこともやっていただけたらいいと思います。

鬼沢会長：先ほど事務局の説明でSDGsという言葉が出てきたように、SDGsで何かものを伝えようとする、本当に今まで違う伝え方ってすごく大切ですし、子供たちを通して家庭に伝わっていくということもあると思いますので、その辺これから改定の部分でこういう伝え方があるとか、こういう手法が非常に有効なんじゃないかということぜひ皆さんからご意見をいただきたいと思うのですけれども。

事務局：やはり昨年度行った市民の皆様へのアンケートによるとまだまだ周知不足。食品ロスについてもSaitama Sunday Soupとか、事業者が取り組んでいるチームEat Allとかここら辺の認知度が市民の1%に満たないところであります。今後まだまだ皆様にどうやって知っていただけるのか皆様のご意見を伺いながら計画の中に盛り込んでいければと思っています。

鬼沢会長：今年の食品ロス削減大会がさいたま市でやられるのでいい機会ですので、ぜひ関心のない方に情報が伝わるような色々な工夫をして知っていただきたいと

思いますし、場所もすごく便利ですから、周りからも見学に来ていただけるような大会にできたらと思っておりますので、ぜひまた皆さんいいアイデアがあったら、事務局の方にお寄せいただけたらと思います。

田口委員：「てまえどり」のことですけれども、最初聞いたとき、本当にわからなかった。何を言っているのだろうと思ったのですが、この報告書にもありますし、セブンイレブンとローソンで始めていて、てまえどりってあった、あれのことかってわかったのですけれども、でも実際に買い物に行く私も、例えばお豆腐にしたら手前にある一番直近の日にちよりも、もうちょっと長く使える奥にある1週間くらい先の方がまだ新しいのではないかと思ってとってたのですけれども、てまえどりということはこれから協力しなければならないと思ったのですけれども、見ているとやっぱり主婦の人は奥のほうからとっているというのが本当に多いように感じました。ですので、コンビニだと並んでいるそのものが奥の方へ手が入らないような作りになっているのかみんな手前から取っていたのですけれども、普通のスーパーだとそれをやるのはちょっと無理なんじゃないかなというふうに感じたのですけれども、買い物に行っている皆さんぜひてまえどり協力しようかなという風に思っていました。それから企業さんも協力してくださるのではないかとあって深く感謝するところなんですけれども、例えばコーヒー屋さんとかに行くとセットでマドラーとかも付くし、それからストローも付いたり、それがもう当たり前として注文すると出てくるのですが、それを今度自分で要りますかとか、自分で取りに行くとかいう風になって必ずしも入用じゃない部分は除きましょうというそういう部分が企業の中で根付いてきたのではないかと思いました。でも、今日もそうですけれどもマイク使いますとこの時期だと1回1回ティッシュで消毒しますし、その分ティッシュが会議をやった後普通のごみ箱に入れなくてビニール袋に入れて口をしぼって、使うときは必ず1回ずつやって消毒して、今もそうですけれどもね、そういうのが早くなくなればいいなという風に今日も思っていますけれども。そういう意味では気分的にご近所の方とごみ出しの時は意識して話さないようにしました。私の生活の中の感想です。

鬼沢会長：プラスチック新法ができて、企業の皆様もお店も無料で渡していたものをもう無料では渡さないという風に徐々になりつつあります。必要な方は必要な分だけ取ってくださいという風になりましたし、レジ袋の有料化があったことで、国民の意識がすごい大きく変わったんですよね。たった2円か3円ですけれども、必ずお店では要りますかって聞くようになりましたでしょ。そうすると要りませんって断る。それは環境省が予想していた以上の辞退率というのが出ておりますので、やはり国民が一斉に行動を変えたというところはすごく大切だと思うんです。そういう意味では制度ができることで意識が変わるし行動も変わるということだと思うので、今回このプラスチック新法ができたという

ところも大きなきっかけだと思いますので、そのきっかけのこの時期に廃棄物の基本計画の改定をして、さいたま市のごみを大幅に減らしていこうということだと思いますので、私たちの意識をそこで変えていく必要が非常にあるということで、市民に向けての普及啓発ってすごく重要になるかなと思いますので、また是非色々なご意見を伺いたいと思います。

野代委員：「てまえどり」の経験談を言いますと、セブンイレブンについては去年の10月頃から始めたんだそうですね。それでたまたま前回の会合の時にやりますよというようなのが来たんですけど、店員さんに聞いてみますとやってみるといいみたいですね。反応がいいそうです。だけど、先ほど田口さんが言うようにお年寄りの方はどうしても手を突っ込んで、新しくないんですよ別に、だけどやっぱり感覚で奥から取るということ。それでてまえどりは5%かな、安くなるんですよ。やはり賞味期限が迫っているものですから、5%って書いてあります。この経験はいい経験だなということでした。

鬼沢会長：スーパーに行ってもてまえどりっていうポップがついているところがすごく増えましたよね。すごくそれはいいなと思いますし、今すぐ食べるんだったら別に3日後のものでなくて短いものでいいと思いますし、いかに私たちの行動を変えるのが難しいかということだと思うのですよ。1回身について行動を変えていくのが難しいということだと思いますけれども、本当に1人1人の行動を変えていかないと本当にごみ減量につながりませんので、その辺は重要なことではないかと思います。

磐田副会長：さいたま市の場合、切迫感があると思うのですよ。お願いしますっていう他の市よりもかなり最終処分埋立の延命とか切迫感がちょっと違うのかなと。アピールの仕方も、やらなきゃこうなってしまうんですよといった形のアピールの形もあるのかなという風に思いますので、そこは数値でクリアにした方がいいかなと。1点一番最初の方に目標値があって、予想よりも人口が増えていますという話があったのですけれども、増えていった結果処理しなければならない量というのがさいたま市が持っている処理施設の最大の量に対してどのくらいの切迫感が今あるのか、そこを超えないようにするためにどのくらいの減量が必要なのかというあたりも逆算して目標値として出していくというのもありかなと思います。先ほどから併せ技でプラスチックごみリサイクルという話も出ていますけれども、逆にプラスチックに関しては可能な限り既存施設を活用するという話がありましたが、もしうまくプラスチック回収ができれば倍の量が出てしまうというあたりを増設するのか他市と協調していくのかそういった長期的なプランも今回考えなければいけないかなという風に思っています。

事務局：プラスチックの処理はさいたま市だと収集だけでも1品目増えるだけで何億もかかります。そういったうえで既存施設を活用するとあるのですが、今の施

設ですと、レーンが2つで2種類に分けることができても例えばそこに製品プラスチックが入ってしまうと、ペットボトルと包装プラともう1レーン必要ってことになってきます。そこの改修工事をどうするかという話が出てきます。あと、そういったところで今の施設で5千トンで最大なので、もう1施設民間に頼むのか、でも頼むのだったらそれはまたそこでかなりのお金がかかってしまう。今のところ我々が考えているのは一般の自治体が考えているのと同じように今の容リ協のルートを拡大する手法、もしくは一括で何か他の手法を使って回収してリサイクルの方に回す。この2つくらいしか考えられない。皆様のご意見を聞きながら進めていかなければならないかなとは思っています。現状はそういうことです。

鬼沢会長：ペットボトルの店頭回収をしている店が増えてきていると思うのですがけれども、市民の皆様になるべくステーションに出していただくよりも店頭を持って行っていただくのも一つの手じゃないかと思えますし、店頭回収しているものはなるべく店頭を持って行っていただくというのもひとつかなと思えますけれども。

小池委員：3Rの話が出たりしたので、ちょっとお聞きしたいのですが、プラスチックのリサイクルはそうなんですけれどもさいたま市って衣類のごみの量ってどのくらい出ているのかなってのはちょっと気になって、もし分かれば教えていただきたい。

事務局：令和2年度で繊維だと2,123トン、だいたい毎年2,500トン弱くらいで推移しています。

小池委員：さいたま市の人口からするとそれは結構多いという認識ですか？

事務局：コロナ禍の時に断捨離で15,000トン多くなって、それ以外ですとちょっと減ったかなというところなんですけれども。

小池委員：実はですね、私は仕事で不動産業もやっています、物件でコロナ中に衣類のごみがすごい出たんです。回収ボックスを置いて、今ユニクロとかでも回収やっているじゃないですか。あれにまとめて持っていこうと思ってやったことあるんですけれども、1か月で100kg以上たまっちゃったんですよ。衣類だけで。結構そこに民間の方だったらビジネスチャンスあるなと思ったりすると思えますし、3R推進するにしてもテコ入れできる余地がありそうだなと思っていて、今回プラスチックの話が出ていましたけれども、脱炭素を推進していく上ではそういった衣類にちょっとフォーカスしていくというのも一つの手段としてはありかなという風に思っていますので、ぜひご検討いただければと思います。

鬼沢会長：衣類は、いまカウントされているものがありましたけれどもそれ以外はほとんど可燃ごみに含まれて出されていますので、ほとんど燃やされているのが現状なんですよ。ですからやっぱりそういうこともまた、資源回収以外での回

収方法とかもね今後検討が必要かもしれないし、そうするとまたたくさん集まるかもしれませんね。

事務局：製造者や販売者の自主回収、この辺は市として働きかけを連携強化していけたらなど。

鬼沢会長：特に大きなステーションモールみたいのところだと回収を1個設けるだけでもかなり集まると思いますので、今後、そういうことも、もちろん行政が働きかければそんなに簡単に断らないで協力してくださるかもしれないので、そういうことは1つ大事なことじゃないかなと思います。

事務局：ここで事務局からその他の報告事項が1件あります。

(事務局から、資料1「第4次さいたま市一般廃棄物処理基本計画の改定について」のうち2 今後の予定について、説明が行われた。)

磐田副会長：次回議論をさせていただくときに、ごみの組成がどれが何パーセントくらいあるのかというデータを合わせて出していただけると議論が活発になるかなと思います。

鬼沢会長：可燃ごみにどんな種類が入っているかというのを皆さんそれを見て、意外と紙が多いとかね、そういうことがわかると思いますので、おねがしいたします。

閉会